

日本の火山活動概況 (2007年3月~4月)



図 1. 2007年3月~4月に目立った活動があった火山  
▲: 噴火した火山  
●: 活動が活発もしくはやや活発な状況であった火山

●樽前山 (42°41'26"N, 141°22'36"E)

A 火口および B 噴気孔群では依然として高温状態が続いていると推定される。3月16日の札幌管区気象台による上空からの観測(北海道開発局の協力による)及び4月30日の第一管区海上保安本部による上空からの観測では、山頂溶岩ドーム及びその周辺の火口や地熱域の状況に変化は認められなかった。

地震活動は低調な状態で、地殻変動に特段の変化はなかった。

●御嶽山 (35°53'34"N, 137°28'49"E)

2006年12月下旬以降、山頂付近の浅い所を震源とする微小な火山性地震の回数は、3月中旬に地震回数の増加が見られるなど消長を繰り返しながらもやや多い状態が続いていたが、4月中旬以降は少ない状態で経過した。振幅の小さな火山性微動は、3月中旬から下旬にかけて発生回数が一時的に増加したが、4月5日以降は観測さ

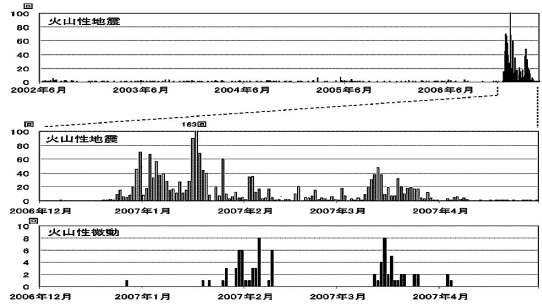


図 2. 御嶽山 火山性地震及び火山性微動の発生状況



図 3. 御嶽山 噴気の状態 (2007年3月16日)

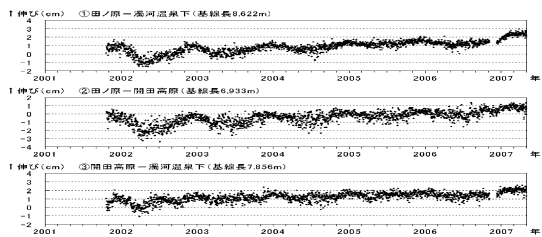


図 4. 御嶽山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001年1月~2007年4月)

れなかった。

遠望カメラ(剣ヶ峰の南東約14kmに設置)で、3月16日昼から夜にかけて山頂付近の少量の噴気が観測された。遠望カメラで噴気が観測されたのは、2003年9月22日以来である。3月16日に長野県が行った上空からの調査で、この噴気は地獄谷上部からのものであることが確認された。3月17日に行った上空からの観測(長野

県の協力による)では、噴気量は減少しており、地表面温度分布は、前回(2月6日、岐阜県の協力による)の観測と比較して特に変化は認められなかった。その後も遠望カメラでごく少量の噴気が時々観測されている。

GPSによる地殻変動観測では、昨年12月から見られている山体の膨張を示すわずかな伸びの変化は、2月に入ってはほぼ停止した。

●三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

噴煙活動は引き続き活発で、多量の火山ガス(二酸化硫黄)の放出が続いている。

3月14日、22日及び23日、4月9日及び20日に実施した観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり800~5,800tで、依然として多量の火山ガスの放出が続いている。なお、三宅島の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。3月31日07時49分には空振を伴う低周波地震が発生したが、地震発生時の噴煙状況に特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

3月7日及び4月26日(ともに警視庁の協力による)に行った上空からの観測では、火口内の地形等に特に大きな変化はなく、山頂火口南側内壁に位置する主火口及びその周辺の地表面温度分布にも特段の変化はなかった。

地磁気全磁力観測では山体内部の熱の状態には特に大きな変化はなかった。

GPSによる地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながらも継続している。

●硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E)

国土地理院のGPS観測によると、島北部の元山地域付近の隆起は、1月以降やや鈍化する傾向が見られているが、依然として継続している。また、防災科学技術研究所の地震観測によると、地震活動は、2月以降落ち着いた状態で経過している。

●福徳岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

4月23日午前、第三管区海上保安本部に南硫黄島付近の海域で変色水が見られるとの通報があった。同日午後、第三管区海上保安本部が上空から行った観測によると、福徳岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる中心部が黄土色で、そこから南東方向に延びる長さ約5,600m、幅約200~1,000mの乳白色から緑色の変色水が確認されたが、噴煙や浮遊物は認められなかった。

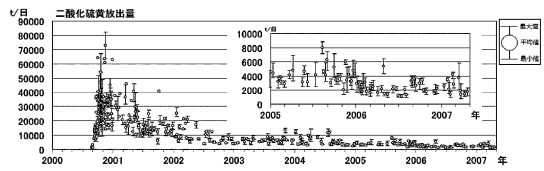


図 5. 三宅島 火山ガス(二酸化硫黄)放出量の変化(2000年1月~2007年4月)

その後、4月24日、25日及び29日に第三管区海上保安本部が、4月27日に海上自衛隊が上空から行った観測でも、乳白色の変色水が確認された。

なお、同海域では3月20日に第三管区海上保安本部が、4月16日に海上自衛隊が上空からの観測を行っており、乳白色の変色水が確認されていた。

●霧島山 (31°53'11"N, 130°55'08"E (高千穂峰)) (御鉢の活動状況)

2月5日に振幅のやや大きな火山性微動が観測され、火山活動がやや活発な状況となった。しかし、その後、地震増加はなく、振幅の小さな火山性微動は時々観測されたが、3月25日以降は観測されず、火口縁を超える噴気も見られず、火山活動は静穏な状態で経過している。

▲桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

南岳山頂火口では、3月20日に噴煙高度が火口縁上2,700mに達する噴火が発生したほか、小規模な噴火も時々発生した。昭和火口では、噴火は発生しなかったが、弱い噴気が時々観測された。

火山性地震や火山性微動はやや多い状態が続いており、火山性微動の継続時間がやや増大する傾向が認められている。国土地理院のGPS観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入による膨張が引き続き観測されている。

●薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上300mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。振幅の小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いている。GPSによる地殻変動観測では新岳の膨張を示す傾向は昨年12月以降鈍化している。

遠望カメラ(新岳火口の北西約3kmに設置)による観

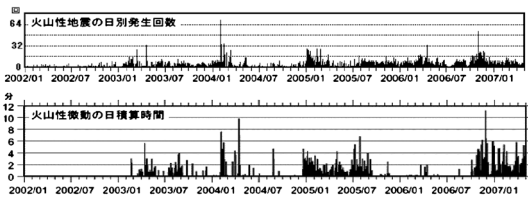


図 6. 口永良部島 火山性地震及び火山性微動の発生状況 (2002 年 1 月～2007 年 4 月)

測では新岳火口周辺の噴気地帯で高さ 10 m 程度の弱い噴気が時々観測された。

#### ▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

3 月 4～5 日, 17 日, 30～31 日, 4 月 2 日に爆発的噴火があったほか, 十島(としま)村役場諏訪之瀬島出張所によると, 小規模な噴火も時々発生した。

火山性地震はやや多い状態で経過した。また, 噴火活動に伴い火山性連続微動が発生した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

(文責: 気象庁地震火山部火山課 加藤幸司)

#### ○教員募集

【熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻地球環境科学講座】

募集人員 准教授 1 名

専攻講座 理学専攻・地球環境科学講座

専門分野 固体地球物理学, 水文学, 地質学, または古生物学

担当科目 大学院および理学部における地球科学の基礎と応用に関連した科目, ならびに教養教育科目

応募資格

1. 学位: 博士あるいは Ph.D. の学位を有すること。
2. 実績・能力:
  - ・研究に対して十分な能力と熱意があり, 国際的な教育研究活動を有すること。
  - ・専門分野において優れた研究業績を有すること。
  - ・大学院博士後期課程の指導が出来ること。
  - ・教育および教室運営など学内の業務遂行に意欲と能力を有すること。

採用予定日 採用決定後できるだけ早い時期

提出書類

1. 履歴書 (市販のもので可. 写真を添付すること.)
2. 研究歴および業績リスト
3. 主要論文 (5 編まで) の別刷りまたはコピー
4. 教育に対する抱負 (A4 用紙に 1000 字程度)
5. 研究に対する抱負 (A4 用紙に 1000 字程度)
6. 所見を求めうる方 2 名の氏名, 所属, 連絡先, E-mail

応募締切 平成 19 年 7 月末日 (必着)。

封筒に「地球環境科学講座教員 (准教授) 応募書類」と朱書し簡易書留にて郵送。

選考の過程で面接をおこなう場合あり

書類送付先・問合せ先

〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1

熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻

地球環境科学講座主任 渋谷秀敏

電話: 096-342-3417

e-mail: [shibuya@sci.kumamoto-u.ac.jp](mailto:shibuya@sci.kumamoto-u.ac.jp)

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/earthsci/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 7 日送信しました)

#### ○テニュアトラック教員公募について

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 東京大学若手研究者自立促進プログラムによる, フロンティア研究チームリーダーもしくはフロンティア研究員 2 名
2. 研究分野: 地震・火山に関係する固体地球科学分野
3. 研究環境: 研究費は初年度に約 1000 万円, 2 年度から 300～700 万円程度を支給。研究費でポストドク等を雇用することも可。スペースは 50 平米程度を提供。
4. 応募資格: 博士の学位を有する者 (外国での同等の学位を含む)。
5. 雇用条件: フロンティア研究チームリーダーは特任准教授もしくは特任講師として, またフロンティア研究員は特任助教として, 2012 年 3 月 31 日までの任期付き雇用。ただし, 任期終了時に研究業績を審査のうえ, 地震研究所専任教員として採用される可能性あり。
6. 提出書類:
  - (1) 履歴書 (市販用紙可) (外部資金獲得状況, 受賞, 招待講演も記載)
  - (2) 業績リスト (査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
  - (3) 主要論文の別刷り 3 編 (コピー可)
  - (4) 研究業績の概要 (2～4 ページ程度)
  - (5) 今後の研究計画 (2～4 ページ程度)